

# I 研究開発の概要

## 1 研究開発構想名

日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成

研究開発 1 「課題研究」 — G L 探究 —
研究開発 2 「教育課程の編成」 — グローバルラーニング（G L） —
研究開発 3 「国内グローバル研修」 — 英語宿泊研修 —
研究開発 4 「海外グローバル研修」
研究開発 5 「大学との連携」
研究開発 6 「企業・国際機関等との連携」
課題研究以外の研究開発 1 「教育課程の編成（外国語）」
課題研究以外の研究開発 2 「英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成」
課題研究以外の研究開発 3 「地域や同窓会との連携」

## 2 期待する生徒の将来像

グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や様々な国際舞台で活躍できる人材となり、人類の幸福に寄与するようなグローバル・リーダー

## 3 身に付けさせたい能力等

- (1) 日本の歴史・伝統・文化を理解する力
- (2) 思考力・判断力・表現力・情報活用能力
- (3) グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を指向する力
- (6) 課題解決能力
- (7) 創造的提案を的確に発信する力
- (8) 英語力

## 4 本校生徒の課題

- (1) グローバルな視点での見方や考え方・異文化理解が十分とは言えない。
- (2) 日本の歴史・伝統・文化を発信することに課題がある。
- (3) 海外で自分の考えを発表したりディスカッションをしたりする機会がない。
- (4) 海外等で使える英語力が十分とは言えない。

## 5 仮説及び検証方法等

### (1) 仮説1 (身に付けさせたい能力等 (1) ~ (4))

「生徒の現状 (課題) (1) (2) (4)」の克服を図り、主に「身に付けさせたい能力等 (1) ~ (4)」を身に付けさせる。

#### ア【仮説1】

教育課程に、グローバル・リーダー育成を目的とした教科を設定し、グローバルな視点からものごとを捉える学習内容にするとともに、日本の歴史・伝統・文化及びグローバルな課題に係る授業、調査活動、体験活動、交流活動、発表活動等を取り入れれば、日本の歴史・伝統・文化に対する理解が深まり、グローバルな社会課題に対する関心・意欲、探究心が高まり、思考力・判断力・表現力・情報活用能力等が向上し、コミュニケーション能力が身に付くのではないかと期待される。

#### イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発2・3・4・5・6」及び「課題研究以外の研究開発1」において行う。

##### (ア) 実施内容

- a 教育課程に、グローバル・リーダー育成を目的とした学校設定教科「グローバルラーニング (G L)」を設定し、既存の教科「地理・歴史」、「公民」、「外国語」を再編する。
- b 学校設定教科「グローバルラーニング」の中に、生徒の課題について、大学や企業、関係機関等と連携し、調査活動、体験活動、交流活動、発表活動等が週時程外で実施できる「G Lアクティブ」を設定する。

##### (イ) 検証方法

- a 生徒、保護者、教員によるアンケート
- b 大学進学実績 (平成30年度以降実施)
- c 課題研究及びプレゼンテーション等の成果からの分析

### (2) 仮説2 (身に付けさせたい能力等 (5))

生徒の現状 (課題) (1) (3) の克服を図り、主に「身に付けさせたい能力等 (5)」を身に付けさせる。

#### ア【仮説2】

海外研修の機会を設け、現地の高校又は大学と連携を図り、自分の考えを発表したりディスカッションをしたりする機会や交流活動を設けるとともに、現地での調査活動、体験活動を通して日本との比較を行うことでグローバルな課題の解決策を探究させれば、異文化を理解し、より良き未来を指向することができるのではないかと期待される。

#### イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発4」において行う。

##### (ア) 実施内容

オランダ、イギリス、ドイツ、シンガポール、オーストラリアでの海外研修を実施する。

##### (イ) 検証方法

- a 生徒、保護者、教員によるアンケート
- b 生徒の報告書の分析

### (3) 仮説3 (身に付けさせたい能力等 (6) ~ (8))

生徒の現状 (課題) (1) (2) (4) の克服を図り、主に身に付けさせたい能力等 (6) ~ (8) を身に付けさせる。

## ア【仮説3】

「G Lアクティブ」で得た情報を整理し、日本の歴史・伝統・文化を踏まえてグローバルな社会課題について研究(国際間での文化や社会の対立を排除し、その融和の実現を図る探究)を行い、国際社会に発信可能な英語での報告を行わせれば、英語力の向上、課題解決方法を考え創造的提案を行う発信力が高まり、課題を解決する能力と態度が身に付くのではないか。

## イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発1」及び「課題研究以外の研究開発2・3」において行う。

### (ア) 実施内容

総合的な学習(探究)の時間を「G L探究」とし、1年次に「G Lアクティブ」等で得た情報を整理し、グローバルな社会課題から研究課題を定めさせ、2年次から日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、グローバルな社会課題の解決に向けた研究を行い、英語によるプレゼンテーションを実施するとともに論文を作成させる。

### (イ) 検証方法

- a 生徒、教員によるアンケート
- b 課題研究の校内外での発表の件数や入賞の件数
- c 進路希望や進路意識の変容の分析
- d 留学生等の外部からの評価
- e 英語検定等の達成レベル
- f 海外研修に参加した生徒の自己評価(英語について)

## 6 生徒の到達目標

### 第3学年生徒

- ① グローバルな社会課題について、日本の歴史・伝統・文化を踏まえて論理的に考察し、結論に結びつけることができる。
- ② 取り上げた研究課題の解決に向け、現実的で創造的な提案ができる。
- ③ 研究内容を適切に論文にまとめることができる。
- ④ グローバル社会における自己の在り方について考えを深めることができる。

### 第2学年生徒

- ① 取り上げた研究課題に対して適切に調査を行うことができる。
- ② 日本の歴史、伝統、文化を踏まえて取り上げた研究課題の解決策を考えることができる。
- ③ 日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を考えることができる。
- ④ 導き出した解決策を具体的に示すことができる。
- ⑤ 自分の考えを論理的かつ的確に発信することができる。

### 第1学年生徒

- ① 全員が海外に自信をもって発信できる、課題研究テーマに関する日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする。
- ② 研究したいグローバル社会における課題を見つける。
- ③ なるべく多くの生徒が英語でプレゼンテーションができるようにする。
- ④ 課題研究の進め方を理解する。

## 7 研究体制（令和2年度）

### （1）SGH推進委員会（16名）

具体的な方針、運営について検討する組織としてSGH推進委員会を編成した。委員の構成は次のとおりである。

委員長 教頭（1名）

副委員長 教頭（1名）、SGH主担当（1名）、国際交流部長（1名）

委員（9名） 探究学習部長、地理歴史・公民科主任、英語科主任、学年主任（3名）、各学年SGH担当（3名）、英語科職員（1名）、教務主任、事務主幹

### （2）SGH実務担当チーム

SGHに係る具体的な企画・運営に係る素案作成及び運営に当たり、研究の中核を担う組織として編成した。委員の構成は次のとおりである。

教頭（SGH担当）、SGH主任、国際交流部員（5名）

### （3）SGHサポートチーム

SGH実務担当を補佐し、GL探究等の運営に携わった。

第1学年副担任5名、第2学年2名

### （5）研究開発ごとの担当

研究開発		主担当	担当職員
研究開発1 「課題研究」	計画・運営	高柳 良訓	SGH実務担当、SGH推進委員会
	課題研究指導	高柳 良訓	当該学年全員
	課題研究助言	高柳 良訓	全職員（地歴・公民を中核とする。）
	プレゼン指導	戸村 玲子	GLコミュニケーション英語担当
研究開発2 「教育課程」	学校設定教科 「グローバルラーニング」	斎藤 隆宏	地歴・公民担当
	GLアクティブ	高柳 良訓	全職員（地歴・公民を中核とする。）
研究開発3「国内グローバル研修」		尾竹 陽子	外国語（英語）担当・学年職員
研究開発4「海外研修」		戸村 玲子	国際交流部・外国語（英語）担当等
研究開発5「大学との連携」		高柳 良訓	SGH実務担当・進路指導部・当該学年職員
研究開発6「企業・国際機関等との連携」		戸村 玲子	全職員（SGH実務担当を中核とする。）
課題研究以外の研究開発1 「教育課程」		羽計 仁子	GLコミュニケーション英語担当
課題研究以外 の研究開発2	英検等に対する 取組	井守 雄一	外国語（英語）担当
	海外からの留 学生等との交流	戸村 玲子	国際交流部・当該学年職員
課題研究以外の研究開発3		入江 順一	国際交流部・同窓会関係職員・進路指導部

## 8 5年間の主な連携先とその内容

連携先	連携内容 ☆印は今年度実施のもの 研究開発5・6に詳細を記載
千葉大学 国際教養学部	講演会の講師、発表会の助言者として毎年複数回の協力をいただく。助言内容は、生徒にフィードバック。
千葉大学環境 ISO 学生委員会	毎年、様々な形で「環境」をテーマに交流 本校生徒が大学を訪問し、説明・案内を受けるスタイル。 本校に来校してもらい課題研究の助言を受けるスタイル。 ☆オンラインで環境問題の意見交換を行う。 ☆オンラインで本校生徒の課題研究中間発表の助言を受ける。
東京大学 大学院総合文化 研究科・教養学部 他	東京大学研究室訪問（2回実施） ☆講演会実施（令和2年9月29日） 講師 阿古智子 教授 ☆東京大学学生とオンラインで「考える会」開催 （令和2年9月22日）
東京外国語大学	毎年、バスをチャーターし大学訪問。講義とキャンパス案内。 ☆講演会実施（令和2年10月27日） 講師 青山弘之 教授
筑波大学	毎年、バスをチャーターし大学訪問。講義とキャンパス案内。
明治大学	☆明治大学生と本校生徒が、若者の政治参加をテーマにオンライン交流
佐倉市役所	毎年数多くの連携企画を開催 ☆「佐倉を考える」会 開催 ☆「新図書館建設ワークショップ」共同開催 ☆「古民家活用ワークショップ」共同開催
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館展示室の解説をしていただく。 日本の歴史・伝統・文化の確認 海外に伝える日本文化の修得
国際協力機構 （JICA）	☆JICA海外ボランティア経験者による講演会 テーマ「海外体験と挑戦する姿勢」
DIRECT FORCE	☆DIRECTFORCE授業支援の会による講演会 テーマ「これからの時代必要となる能力」
佐倉国際交流基金	佐倉国際交流基金が主催する「日本語講座のつどい」に本校生徒がボランティアとして参加。 ムスリム食生活などフィールドワークの際、協力していただく。
東京ジャーミィ・トルコ文化センター	東京ジャーミィ・トルコ文化センターを訪問し、見学・案内。 毎年好評で多くの生徒が参加。
日本赤十字社	☆「献血を広めよう」研究班による献血イベント開催

株式会社 オカムラホーム	☆「古民家活用ワークショップ」
クレアシンガポール事務所	海外研修において、クレアシンガポール事務所を訪問し、職員から課題研究の指導・助言を受けた。
セント・ジョセフ・インスティテューション	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。
デュッセルドルフ市	デュッセルドルフでのフィールドワーク及び現地校との連携等について支援を受けた。
ツェツィリアンギムナジウム	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。
クレアロンドン事務所	海外研修において、クレアロンドン事務所を訪問し、職員から課題研究の指導・助言を受けた。
ホリポートカレッジ	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。
ナンボー・クリスチャンカレッジ	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。
シーボルトハウス	シーボルトハウス フォラー邦子 氏との連携により、オランダ・ライデン大学や国立歴史民族学博物館との連携を構築し、生徒がオランダ派遣の研修の一環として訪問し、説明を受け調査を行った。
佐倉市立 佐倉小学校	課題研究に係る検証を、児童対象に特別授業として実施した。対象6年生約120名。 本年度のテーマは「食品ロスと給食」
NIPPONIA SAWARA	香取市佐原地区で宿泊業を営む NIPPONIA SAWARA を訪問し、地域活性化への取り組みについて話を伺う。
株式会社 千葉醤油	香取市で長く醸造業を営む千葉醤油を訪問し、醤油の生産現場を間近で見学及び解説。